

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292200021		
法人名	社会福祉法人 五島会		
事業所名	グループホーム福美荘	ユニット名	福美荘B
所在地	長崎県五島市三井楽町濱ノ畔3185		
自己評価作成日	平成25年9月1日	評価結果市町村受理日	平成年月日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-3-1 博多いわいビル2F		
訪問調査日	平成25年10月16日	評価確定日	平成年月日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当法人内GHの理念は「家庭的な雰囲気の中でその人らしく尊厳のある生活を目指し、目配り・気配り・心配りで心に寄り添うケアを提供します。」で取り組んでいます。これは、本人・ご家族の希望を取り入れながら利用者のペースを維持しながら支援していくことを基本にケアを行っています。職員側の決まりや都合を優先しがちな介護業務から利用者の自立を支援するために「どうすればよいか」日々考え行動することを目標にしています。そのため毎月職員の研修会を開催し知識や技術の向上に取り組み、研究発表会の開催など先進的な活動を行っています。介護の知識や技術の進歩が質の高いサービスにつながり、職員の「おもてなしの心」でケアすることに力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の唱和を申し送り時に行うことで、「目配り・気配り・心配り」を意識し、利用者の一日一日の生活を安全で穏やかに、そして笑顔で過ごしていただけるように支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会加入はもとより、地域の行事や活動にも積極的に参加(清掃活動など)しており、普段から、散歩時に会話を楽しんだりして交流できている。ここ数年は、他地区の町民運動会にも足を伸ばすことができています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体で、また、事業所独自での研修会を経て、認知症の理解を深め知識を高めるように努めている。また、法人内での研究発表会も継続されており、利用者の生活の質を高めるための取り組みの場となっている。発表会の取り組み内容については、運営推進会議の場で報告を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ユニットでの開催となり、参加人数は少ないが(9名ほど)、実績報告、事業計画の報告以外の議題は、内容的に偏ったものにならないよう配慮している。また、ミニレクリエーション大会や敬老会など、施設の行事に合わせての開催を図り、参加型とすることで、楽しんでいただけるような工夫もしている。今回は、1月の開催時ぜんざいを振る舞い(鏡開き)好評であった		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所職員担当者のミニレクリエーション大会への参加は恒例となっており、見学だけでなく、競技などへの参加協力もいただけており、また、生活保護担当者の訪問時には、利用者の生活状況をお伝えしたり、介護保険関連での相談や質問をしたりと、連携を図ることができている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会、関連しての会議実施、身体拘束廃止に関する研修会等をとおして、知識の習得と共に、普段のケアを振り返り、身体拘束にいたる恐れはないか、常に、危機意識を持ってケアに当たるように努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に、高齢者虐待に関しても、防止委員会の立ち上げ、関連しての会議実施、高齢者虐待防止法を含む研修会等を実施し、知識を深めている。また、定期的に職員一人ひとりが、チェック表を通して、自己のケアや言葉遣いなどを振り返ることができるようにしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在まで、権利擁護の活用例はないが、研修等を通して知識の習得には努めている。必要な場合は関係者と連携を図りつつ、利用者やそのご家族が、不安なく円滑に活用できるように備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明は、「懇切丁寧に、わかりやすく」を意識している。必要であれば、自宅へ伺って説明を行うこともある。改定の際には、家族交流会など、ご家族が一堂に会する機会を利用し説明を行い、さらに個別にも説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。面会時や電話の際にも近況報告を行い、ご家族にも安心していただけるように配慮している。また、年に1回家族交流会を開催しているが、一人でも多くの方の参加が得られるように、ミニレクリエーション大会に併せて実施し、意見・情報交換を行い、信頼関係を深められるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員と共に、「利用者の生活を、利用者の視線で」見つけ、安全で穏やかな生活の実現に必要な「改善点」や「アイディア」を職員の意見として代表者へ届け、可能な限り実現できるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今回、暑さ対策としてTシャツの支給があった。ボーナス・昇給など就労意欲に繋がり、人材の確保により、急な休みも気兼ねなく取れるように配慮されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体や事業所独自で定期的に研修会や勉強会を実施している。代表者は積極的に様々な知識の習得をしており、代表者自らが教鞭に立つ。楽しみながら学ぶことを意識した研修スタイルであり、職員も楽しみながら学ぶことができている。また、当施設では基礎的な知識として、ベッドメイキングを老健にて実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は管理者をはじめ職員に、積極的に外部研修に参加する機会を設けている。外部研修で得た情報・知識は、事業所内での研修会・会議の場で職員で共有し、ケアに活かすように努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴や現在の状況、要望に関しては、利用者・ご家族より聞き取りを行うが、前情報に翻弄されることなく、入所してからの状態を職員一人ひとりの目で細やかに観察し、できること・できないことを見極め、意欲を引き出すよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族としては遠慮からか「施設にお任せします」との意見も多い。内に秘めている想いを組み取ることができるよう、コミュニケーションを少しでも多く取るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所から初回プラン作成までは食事・排泄・入浴・コミュニケーション等、日常生活におけるあらゆる関連動作に関する「できること・できないこと」を細かく把握し記録。その情報を基にケア項目を決定し、過剰なケアによるレベルの低下がないように注意している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりが「できること」や「興味を示すこと」に視点を置いて観察し、関わるように努めている。また、難しいと思われることでも、参加する形を少し変えるだけで、参加を可能にすることができるという意識を持って、何らかの形で携わることができるように配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者にとって職員は疑似家族でしかなく、ご家族に勝るものはないと、普段から、ご家族の協力体制に対して感謝の言葉を忘れないようにしている。病院受診なども、個別に（利用者本人の希望で）ご家族の協力をいただいたこともあった。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	お盆には、ご家族の協力を得て自宅に外泊し、墓参りや近所の知人宅を訪ねたり、親しい人達との時間を作ることができた。長崎まで（孫の結婚式に出席するために）の小旅行も実現できた。教会との関わりも、神父様の慰問や敬老会への参加等で継続できた。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や状態、認知症のレベルを把握しており、利用者同士の関係を良好に維持するための必要なフォローも心得て、トラブルには十分注意し事前対応に努めている。利用者間では、高齢者を労わる関係はあり、利用者が利用者の水分補給を手伝ったり、穏やかな生活の支援に携わっているケースも多い。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も電話での近況報告や相談などを受けている。「誰かに話すことで不安がなくなり安心できる」との嬉しい言葉をいただいた。また、親戚の方の利用希望時には当法人を勧めてくださったとのこと。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを図るよう努めている。意思疎通の難しい利用者に関しては、表情や態度から汲み取るよう努め、何より、安心して生活できるよう、優しい言葉掛けと穏やかな態度、アイコンタクトを意識し、ゆったりとした心構えで利用者のペースでの「意思決定」を待つよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者やご家族との会話の中から、知り得た情報を基に、食事作りや洗濯物たたみ等のお手伝い作業、野菜の収穫など楽しめる活動を生活の中に取り入れるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前とは生活パターンが変わる場合もある。利用者の希望に寄り添いながら、できる限り自由に自分のペースで過ごしていただくようにしている。好きなテレビを見終わってからの食事、汗をかいた後のシャワー浴、小腹が空いたら大好きなかつぱえびせんを食べるなど、一人ひとりの希望に寄り添うように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の現在の状態や、過去の傾向(時期的な変化を含む)を鑑み、ご家族の意向も取り入れつつ、現状に即した介護計画作成に努めている。アセスメントの段階では現場の職員からの情報を収集し、新たなニーズの出現についても情報を得られている。身体レベルの細かい変化にも気づくことができ、プラン作成に役立てている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「普段と違う小さな変化」を見逃さないように気をつけている。個別のケアチェック表や介護記録、水分量や排泄チェック表などの記録があるが、常に、正確性と詳細さを意識しながらの記録に努め、さらに申し送りでも口頭での情報共有を図っている。状況に応じたケアの統一は図ることができている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりの変化を把握し、状態に応じて、職員間で話し合い、ご家族の協力を得ながら対応したり、主治医との連携を図っている。ご家族からの相談等にも可能な限り迅速に対応しながら、安心していただけるように、解決に導くことができるように努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	「利用者全員で」楽しめるようにとの思いから今回初めてちゃんこを施設にお呼びした。ドライブだけでなく喫茶店にも行ったりと、普段と違う雰囲気味わってもらえるように活動に盛り込んだ。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	昔からのかかりつけ医が居る場合はできるだけ継続できるようにしている。遠方である場合は市内の病院に変更しているが、ここでも利用者・ご家族の希望を伺うようにしている。主治医との連携は図ることができており、相談もできる。嚥下機能の低下により、錠剤から細粒に変更するなどの対応を行った。個人病院の場合は、往診して下さるケースもある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護師は勤務していないが、母体の老健看護師の協力は得られるようになっている。知識・対応技術面で、必要に応じアドバイス・相談できる体制は整っており、急変時の対応に備えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院に際しては、介護サマリー・口頭での申し送りにて、これまでの経過と現状についての細かい情報提供を行っている。入院中も、電話や来院にて経過や検査状況等の把握に努め、必要に応じご家族への電話連絡も行い、安心した入院生活が送れるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアのケースはまだないが、希望があれば受け入れる方針にて、終末ケアに関しての知識習得に努めている。主治医の意見を踏まえ、医療的な支援を必要とする状況においては、本人・ご家族との話し合いを行い、母体老健への転居をお願いするケースもある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルは事業所に設置されており、いつでも閲覧可能。事業所内での研修会では、実情に即した内容で学び、実技訓練も定期的の実施している。研修資料は全職員が手元に持てるようにしており、いつでも復習することができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練は事業所独自で年2回の実施(利用者と共に)。非常災害時の持ち出し備品として、水や菓子類、ライフライン確保リスト表や緊急時の連絡先一覧を添付したファイルなど、定期的に管理しながら常備している。今回、避難誘導の目印としてプレートや蓄光シールでの誘導表示を設置。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりのレベルに応じた対応を意識している。職員の言葉遣いや声のトーン、速さ、態度などによって、利用者の精神的な混乱を招いてしまうことがないように気をつけている。また、職員間でも、お互いの関わりの仕方を注意しあうようにしている。言葉遣いについては定期的に個別での自己チェックを実施。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通は可能でも、自分の想いを表現することへは遠慮の方が強いので、自分から切り出すことは少ないのが現状。少しでも自分の意思を表し、心身ともに満足した生活が送っていただけるように、普段の会話の中から、さり気なく、想いを引き出せるように努めている。1対1の会話の場面の方が想いの表出はある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを把握し、個々に合ったケアの提供に努めている。外出の希望や買い物、入浴の順番など、希望にできる限り添えるように対応している。活動にお誘いする時も、まずは利用者の希望を伺い、強制的にならないように気をつけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容を活用している。今では心待ちにされている方も多い。カット中も会話が弾んで、カット前と後では表情も変化し、とても喜ばれている。可能な限り、衣装の購入には利用者とともに出掛け、ゆっくりと買い物を楽しめるように支援している。お店の方も、椅子を準備してくださったりと、温かい心遣いをいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	荘庭には色々な野菜を育てており、収穫の喜びを味わっていただくと共に、それらの恵みが食卓を彩ることで会話や食欲も増している。台所作業のお手伝いも積極的にされる方が多く、自ら食器洗いや皮むき等、申し出てくださる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体老健の栄養士による献立のチェックや栄養指導をいただいて参考にしている。利用者の歯の状態、体調、精神状態、好みによって、食事や水分の摂取量に波はあるが、無理に摂取を要請するのではなく、提供のタイミングをこまめに行ったり、提供するものを替えたりと柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性・必要性を、全職員が意識し、介助に当たっている。自歯・義歯によって、それぞれ対応は異なるが、利用者一人ひとりの機能・レベルを把握し、過剰なケアにならないように気をつけている。義歯は夜間のみ消毒支援を徹底しており、歯ブラシの劣化状況を観察し、適切なタイミングで交換介助している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、早めの対応をする事で、日中の失禁を減らすことに成功している。リハビリパンツから布パンツに移行した利用者もいる。ポータブルトイレを設置することで、介助レベルの下がった方もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	基本は食事の工夫や水分補給、運動を取り入れることで、薬への依存は最終手段と、全職員が意識して関わっている。服薬でのコントロールに関しても、できるだけ利用者の体力的・精神的負担が少なくなるように配慮し、主治医との連携を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の順番は、利用者によっては非常に気になる。できる限り利用者の希望に添えるように配慮している。失禁の状況によっては、昼より関係なく、必要に応じ対応できるようにしている。また、活動で発汗があれば、希望に応じられる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者によってはクーラーの使用に馴染まない方もおられる。体調不良に至らないよう、涼を取る手段として、ご本人の意向で、水枕や扇風機を使用いただいている。安眠への配慮としては、昼間の活動充足はもとより、就寝へ向けた静かな環境と精神の安定の確保に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の服薬一覧ファイルにより、利用者一人ひとりの内服薬の把握はできるようにしている。また、薬の効能と副作用に関しては特に注意して把握するようにし、服薬後の状態観察の指標としている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの楽しみや生きがい、趣味や意欲を見せる場面を把握しており、その発揮の場を提供するように努めている。入所したばかりで精神不安があり帰宅願望も強かった利用者が、洗濯物たたみや食事作りを一緒に行うことで笑顔を見せてくださるようになり「家族を待つ」ことができるようになった。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	身体的なレベルの低下はあるものの、自宅への外出や外泊は利用者にとって大きな希望の一つ。ご家族の協力が得られる方は、少しでも多くご家族や親戚、知人の方々と触れ合う時間を作ることができるように支援している。また、買い物や散歩など、戸外で過ごす機会を持つよう努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元にお金を所持し得る入居者はほとんどいない(管理可能な方は1名のみ)ので、預かり金として管理している。面会時など定期的にご家族より、残金・出納帳等、確認をしていただくようにしている。買い物用にと、財布を別にお預かりしているケースが1件ある(買い物時には自分の手で支払いをしていただく)。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自らダイヤルされる方もおられるので、自分で電話していただくが、ダイヤル間違いをしないように見守りは行っている。掛けることができない利用者の場合は支援している。また、家族や知人からの電話にはスムーズに会話できるように子機で対応したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの場所は、わかりやすい絵や文字、大きさで、表示をし、場所認識できるように配慮している。視力低下の利用者より、「電位を消したら何も見えない」との声が聴かれ、不安を取り除くために、就寝までは点灯し、眠られてから豆球にするなど、個別の対応を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれに定位置があるようで、気の合う利用者同士での会話が弾んでいる。また、玄関口のベンチは、夏場は涼を取るための場所としても活用されている。廊下のソファは、歩行運動の休憩場所として活かされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	大切にされているご家族の写真や、自身のアルバム、自宅で長年使用してきた馴染みの鏡など、愛着のある物に囲まれて穏やかに過ごせる空間作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できない部分に気を取られることなく、ここを支援すれば後は自分でできるといった視点の変換を図り、できる限り、自分の力で意欲的・積極的に生活していただけるよう支援している。		